

きらり人

地域に根差した大工を育成する

阿形

あがた

健二

けんじ

さん



PROFILE

あがた・けんじ (62: 大山)
建築業を営む傍ら、小笠高等職業訓練校校長を務める。小笠建築合同組合組合員。

業界発展に力を注ぎ 厚労大臣賞を受賞

認定職業訓練の振興と育成に多大な貢献をしていることが認められ、小笠高等職業訓練校の阿形健二校長が、職業能力開発関係で「厚生労働大臣表彰」を受賞した。この表彰は、職業能力開発の推進を図るため、認定職業訓練や技能検定の実施に貢献があった人や事業所を対象に、厚生労働省が毎年実施している。小笠高等職業訓練校は1973年設立の県認定職業訓練施設。掛川、菊川、御前崎各市の行政や小笠建築合同組合などの支援、協力を受け、これまでに約400人の卒業生を輩出している。木造建築課程があり、建築に関わる一般的な内容を学ぶことができる。現在は10代から30代の6人が訓練に励んでいる。阿形さん自身も同校の一期生で、当時は150人以上の人が通っていたという。

自分にできる恩返し 足掛け26年の歩み

阿形さんは建築業を営む傍ら、同校の指導員になって通算26年目。このうち副校長を9年務め、校長となって6年目を迎えた。

「自分の子どもを育ててこれたのも、職業訓練校で基礎を学び、手に職を持てたからです。恩返しのため指導員を引き受けました。少しくらい無理しても、地域に根差した大工を育成することが、私にできる精一杯の恩返しだと思っています」と阿形さんは話す。指導員時は、年に7回程度訓練校を訪れていた。しかし校長になると60回以上、役員の会合などを含めると年に150回以上、足を運んでいるという。

一人前の 後継者を育てていく

「今回の受賞は、私一人の力でいただいたものではありません。組合員や市の支援がなければ訓練校はなかったのですから。みんなの協力や支援のおかげです。そして何より家族の理解があったからこそ、ここまで指導員を務めてこれたと思っています。本当に感謝しています。あと何年続けられるか分かりませんが、今後も自分にできる限りのことはやっていきたいです。1人で一軒の家を建てられるような大工。地域に根差した後継者を育てていきたいです」と今後の抱負を話した。